≪助成事業のテーマ≫

観光振興と職業体験による賑わい創出事業

大橋通り商店街振興組合

高知県高知市

ポイント

子供たちの職業体験イベントと伝統を守る“よさこい”で、集客促進と地域との一体感を強化

高知市民の台所として古くから親しまれている商店街で、青年部が中核となり、街の顔である「よさこい祭り」に因んだイベントで観光客の増加を目指すとともに、キッザニアの商店街版ともいえる小学生対象の職業体験イベント「わくわくワークるんだ商店街」で、子供たちに働く喜びを知ってもらい、子育て世代など地域の人々に商店街の存在価値を再認識してもらった。

商店街情報

所在地：高知県高知市帯屋町2丁目1-33-4F
地域の人口：334,946人　153,707世帯（高知市）
商店街の類型：広域型商店街
会員数：41名
店舗数：50店舗 （主な業種構成：食料品、飲食店、美容・健康、生活雑貨、ファッション等）
TEL：088-873-1366　FAX：088-873-6641
URL：http://www.kochikc.co.jp/ohashidori/

商店街の入り口

商店街の概要と近年の環境変化

当商店街は、よさこい祭りで有名な高知市で、「JR高知駅」から約1Kmほどの中心市街地の西部エリアに位置し、近接する壱番街、帯屋町1丁目、帯屋町2丁目の3商店街とともにアーケードが架かる「帯屋町筋商店街」を形成。街区の総延長は約700mを誇る広域型商店街である。大正7年に開設された公設市場を前身とすることから食品関連の業種が充実しており、古くから「高知市民の台所」として親しまれてきた。

また、高知市の中心商店街では、平成12年に「イオン高知ショッピングセンター」が出店した影響等で、14年12月には「高知西武百貨店」が、17年11月には「ダイエーショッパーズプラザ」が撤退。さらに、18年10月には当商店街の核店舗である「高知スーパーバルザ店」が撤退した。一方で国道や県道沿いには駐車場を整備したロードサイド店が立ち並び、商店街への客足の減少が大きな課題となっていた。

しかし、こうした厳しい環境下でも当商店街は積極果敢に対応し、賑わいの灯を絶やさず、若手を中心に工夫を凝らして様々なイベントを展開、地域の人々に商店街の存在をアピールしてきた。さらに、平成21年になると高知スーパーの跡地に、1階が新規出店のスーパーで上階がマンションの複合型商業施設が完成。新たな住民の入居等で歩行者通行量も増加傾向となり、組合員の業績も好転の兆しを見せつつある。

昭和24年 大橋通り公設市場

現在の大橋通り商店街

助成事業の概要とその成果

当商店街は、“高知県で最初にアーケードを設置した商店街”、“よさこい祭りに初回から参加した商店街”、“7月の土曜夜市は当商店街が発祥”、というように常に地域商業の先駆けとしての役割を果たしてきた。また、毎年多くの子供たちが参加する商店街版職業体験イベント「わくわくワークるんだ商店街」はその活動が評価され、平成25年度子ども若者育成・子育て支援功労者表彰において、商店街として初めて内閣総理大臣賞を受賞した。

助成事業では、「観光振興と職業体験によるにぎわい創出」をテーマに、観光客を誘引するよさこい祭りを商店街で体験できるイベントと、「わくわくワークるんだ商店街」の充実・拡大を企画して実施。街の魅力発信と売上げの増加を図り、子供たちを地域全体で育てていく実践の場とした。

よさこいアンコール開催
本番さながらのパフォーマンス

(1)「よさこいアンコール」の開催

高知名物のよさこい祭りは、毎年8月9日から12日の4日間、市内16ヵ所の演舞場等で、各地から集まった200チーム・約18,000人の踊り子が、鳴子の音を響かせて情熱的なパフォーマンスを繰り広げる夏の風物詩である。

当商店街では、本番のよさこいを見ることができなかった観光客などの要望に応えて、余韻冷めやらぬ8月18日～31日までの2週間、商店街のアーケード内において各日3チームによるよさこい踊りを披露するほか、よさこいの体験イベントを実施した。期間中のよさこい体験者は800名に上り、集客だけでなく遠隔地からの観光客に喜んでもらい、各店舗の販売増にもつながった。また、イベントに合わせて高知市旅館ホテル協同組合との連携により、宿泊している観光客に商店街で使える抽選券を配布。組合員店舗が取り扱っている特産の食品等を景品にして「市民の台所」をPR。抽選会には692名もの参加があった。

(2)「わくわくワークるんだ商店街」の開催(11月2日)

商店街と市内の企業や団体が協力して、子供達(小学4年～6年)に様々な職種の仕事を体験してもらうイベントを開催。いわば、商店街版のキッザニアで、「るんだ」は「やるんだ」「稼ぐんだ」「働くんだ」を意味する土佐弁とのこと。予め教育委員会を通じて募集した小学生から参加者を抽選。210名の小学生が20を超える職種について、実際に指導を受けながら概ね3つの職業体験を行った。カフェやお菓子づくりなどに加え、ユニークなところでは、警察での交番勤務や犯罪捜査の体験、JALのキャビンアテンダントの接客体験、日本銀行高知支店による偽札の鑑定、新聞記者となって当日の模様を記事にするなど盛りだくさんの内容で、参加者の満足度は非常に高いものがあった。

また、仕事の体験後、一つの仕事で『200るんだ(200円相当)』の「給料明細書」を受け取り、これを「るんだ銀行」で「るんだ通貨」に交換してもらい、商店街で買い物をしてもらった。

商店街が地域の子供達の職業観の育成を図り、楽しみながら将来に向かって生きていく力を養ってもらおうというもので、事業の開催前から問い合わせが多く、対象とする地域も高知市内から隣の南国市にまで拡大。子供達には街をよく知ってもらい、親達には実際に商店街で買い物をしてもらうなど、多くの面で成果が上がっている。

警察官や新聞記者の
お仕事体験の様子

助成事業以降の商店街活動

助成事業でスタートしたよさこい祭りの体験型イベント「よさこいアンコール」は、毎年開催を重ね、地元の観光産業とも連携して定着したものとなっている。地元のホテルも、よさこい祭りの期間は部屋が取れないため、よさこいアンコールを紹介するケースもあり、JRもポスターの掲示に協力してもらっている。

また、平成28年には11回目を迎える「わくわくワークるんだ商店街」は、新たに日本郵便やJR四国等も参加してくれるようになり、職種を拡大。200名の枠を大幅に超える参加希望があり、地域に定着したイベントに成長。参加した児童には、働いてお金を貰うことの大切さや社会の仕組みなど普段の生活では学べないことを学ぶ機会となり、子供がお金を大切にするようになったとの声もいただいている。

大橋通り商店街のよさこいチームの旗と
駅等に掲示されたポスター

家族連れで賑わう土曜夜市

商店街ではこのほか、恒例の「土曜夜市」や「南国土佐皿鉢祭り」も継続して開催しており、平成28年度には子供たちの伝統行事であった「かいつり(粥釣り)」を復活させた。

(1)土曜夜市:7月の毎土曜日に開催

当商店街が「日頃お世話になっているお客様と一緒に遊ぼう」をコンセプトに始めた夜市だが、現在は中心商店街全体で取り組む事業に発展。平成29年で43回目を迎え、商店街の青年部が焼きそばやかき氷などを出店するほか、金魚すくいやヨーヨー、竹馬づくりなどの企画を提供し、家族連れや友達・恋人同士などの来街者で賑わっている。

(2)南国土佐皿鉢(さわち)祭り:毎年3月に開催

大皿にカツオやタイなど旬の幸を盛り付ける土佐の伝統料理「皿鉢料理」、婚礼など客人を招いてもてなす酒宴には欠かせないもので、祭りでは旅館、ホテル、料亭等の協力の下、職人が腕を競った約200点の料理が展示される。2006年からは当商店街が会場となって実施しており、アーケードがあることから天候に左右されることなく、多くの来街者を集めて年々活況を呈し、華やかに開催されている。

豪快な皿鉢料理の展示

(3)かいつり(粥釣り)の再現:2月4日開催

「かいつり」は、旧暦1月14日の小正月に七福神のお面などで仮装した子供たちが家々を廻り、福の神として迎えられてお菓子などを貰う地域の伝統行事。戦前は高知県の各地で行われていた。商店街ではこの伝統行事を復活させるべく実行委員会を組織し、小学生以下の子供が参加できるものとしてPR。当日はお面をかぶった子供たちが続々と商店街を訪れ、多くの親子連れで賑わった。今後は「わくわくワークるんだ商店街」とともに子供向けイベントとして定着を図っていく方針である。

かいつりの様子

自治体等との連携の状況

高知市
Kochi City

大橋通り商店街は、近接する3商店街とともにアーケードが架かる「帯屋町筋商店街」を形成しているが、これに「おびさんロード商店街」「はりまや橋商店街」「京町商店街」「新京橋商店街」を加えた8つが高知市の中心商店街となっている。高知市も中心市街地を中心に人口が減少しているほか、高齢化率も高くなっている。こうした社会的状況を背景に商店数、従業者数、売上高等も減少傾向にあり、活性化への取り組みが急がれていた。そこで市では、平成24年に官民共同で「中心市街地活性化計画」を策定し、「土佐の風土と文化を継承・創造・発信するまち」を基本コンセプトに、中心市街地の活性化に取り組んでいる。商店街については、中心市街地の魅力を向上させ、回遊性を高めていくことを目標に以下のような支援策を講じている。

①高知市空き店舗活用創業支援制度
商店街又は中心市街地の空き店舗を活用した新規創業等に対し、家賃等経費の一部について助成を行っている。

②共同事業助成金
商店街振興組合や協同組合等が商店街の売り上げの増大や集客促進等のために実施するイベント、販路開拓、調査、研修、情報発信等の事業に対し経費の一部を助成しており、大橋通り商店街においてもイベントの開催等に活用されている。

③高知市チャレンジショップ事業
商店街が空き店舗を活用してチャレンジショップを運営するもので、二つの商店街で学生が店舗運営にチャレンジした実績がある。

商店街の今後の戦略

当商店街の活動は、先輩方が築いてきた伝統の上に展開されているが、その一つに“新しい事をするのが好き”というものがある。高知で最初にアーケードを作ったのが当商店街で、「よさこい祭り」には初回から商店街として参加している。「土曜夜市」も当商店街が発祥で、現在は中心商店街全体に拡大している。このように、事業を始めたらいかにして継続していくかが大事で、創意工夫して一過性のものにならないように努力している。特に、「わくわくワークるんだ商店街」は、子供たちの熱心な参加と多くの企業・団体の皆さんの協力で今日まで続けられた。今後も工夫を重ねながら取り組んでいきたい。

また、平成30年の夏には、中心市街地に県・市合同の図書館がオープンする予定で、年間100万人の来館が見込まれており、こうした市街地の活性化策には商店街としても大きな期待を寄せている。

今後の商店街組織については、若い力が不可欠で、4年前の役員改選時に3名の40代前後の副理事長が就任してくれた。現在、理事長の補佐役、わくわくワークるんだ商店街の担当、会計他全般の担当として仕事を分担して担当してくれている。これからは3人の若い副理事長にしっかり後を継いでもらえるようサポートに力を入れていきたい。

～ 仕掛け人 ～
大橋通り商店街振興組合
理事長　鍋島　勇雄

取材を通して明らかとなったこと

当商店街は、平成30年で100年を迎えるという長い歴史を有し、代々受け継がれてきた伝統を大切にしながらも、それに胡坐をかくことなく、新たな事業に常に挑戦しており、いわば進取の気性に富んだ街である。

また、地域の企業・団体や行政等との連携も良好で、地域の多くの人々を巻き込みながら活力を向上させている。特に、商店街活動の核となるのが青年部であるが、理事たちも若者に任せきりにするのではなく、理事会等を通じて斬新なアイデアや工夫の実現化をサポートしている。加えて、青年部員は20名程度だが、商店街の内外に青年部活動を支援する外部メンバーがおり、実際の行動力や事業遂行能力は非常に高いものがある。当商店街の代表的なイベントである「わくわくワークるんだ商店街」事業も、青年部が中心となって企画・運営を行っているが、こうした周囲の支援体制の力も見逃せない。

その上、商店街の活動に地域の観光機関や協同組合、小学校、警察、自衛隊、様々な企業等による協力のネットワークが構築されており、商店街の活動そのものが地域のパフォーマンスを高めることにつながっていることも他の商店街活動の大きな参考となる部分である。